

AI（人工知能）による人間のコピー

2020/01/09 by 人間理智に期待している人

先月の年末恒例の「NHK 紅白歌合戦」に、1989年に死去した美空ひばりがAI（人工知能）で復活し、30年ぶりの新曲として12月18日に発売された「あれから」を披露しました。ひばりが3Dの等身大のホログラム映像として登場し、歌ったのです。「AIでよみがえる美空ひばり」は、2019年9月29日に放映されたNHKスペシャルで初公開されました。下記のリンク先で同じ歌唱と3D像を観ることができます。



AI技術でよみがえった美空ひばり (Ref.1)

(Ref.2 <https://www.nhk.or.jp/special/plus/videos/20191007/index.html>)

これをご覧になって、どう思われたでしょうか。懐かしく感動された方、あるいは故人に対する侮辱感の様な違和感を持った方もいたのではと思います。私は何か不快感に似た違和感がありました。私の心の中に思い出と共に存在する「ひばり像」が、コピー故人によってかき乱される様な不快感です。本物と区別がつかないコピー故人の出現は受け入れられないのです。このような感情は、本物と見間違えるコピー故人の出現など考えもしなかった時代に遭遇した人のみが持つ感性なのでしょうか。

違和感を持った人は一部の方に限らないようです。インターネットでも様々な反応が報告されています。これまでも、故人を「作品」としてよみがえらせることは、映画やドラマなどでこれまでに頻繁に行われています。そこに違和感はありませんでした。それに対して、今回のAIによる故人の復活（コピー）は、何ゆえにそうなるのでしょうか。

この問題に関して、西岡千史氏のメルマガ記事 (Ref.3) 『“紅白出場” AI 美空ひばり「気持ち悪さ」の正体 法規制は必要か』があります。その中に回答を示唆する福井弁護士の言葉があり、以下に紹介します。

「ドラマで俳優がある人物を演ずる場合、本人でないことは明確です。一方、AI技術で本人そっくりの存在を作り出すことは、人格の再現性が強い。頭では本人でないとわかっていても、つい重ねてしまう人もいます。今後、技術の発展に合わせて表情も会話もリアルになり、さらに人格の再現性が高まるでしょう。そうすると、人々の反応もいっそう大きくなるはずです」

「考えられるのが『依存』の問題です。例えば家族や恋人を失った寂しさを埋めるために故人がAI技術で復元されると、いつまでもそれに依存してしまう可能性があります。有

名人が AI で再現されて、高額な商品売りつけるようなビジネスもありえます。また、AI 技術が暴走した場合、誰が責任を持つのか。開発者なのか、それとも操作した人なのか。そのあたりの議論も深まっています」（福井弁護士）

この『依存』問題に関して、数年前に同年代の友人が語ってくれた切ない話を思い出しました。老人ホームに入っていた友人のお母さんのことです。ホームでの生活に潤いを足すために、友人はソニーが開発したロボットの初代ペット犬「AIBO」を持ち込んだのです。しばらくは良かったのですが、その内にそのお母さんが食事の多くを残す様になったとのこと。理由を尋ねたところ、その可愛い犬に餌として分けてあげたいからと答えられたとか。少し認知症気味だったそうです。

初代「AIBO（大文字）」は 1999 年に発売され 2014 年にその修理対応が打ち切られました。そして 2017 年 11 月に「aibo（小文字）」として復活しています。この復活犬には、新たな高度技術が組み込まれており、動物的反応をするそうです。例えば、おしっこ（音のみで液体は無い）をして砂かけ行動までするそうです。オスとメスでは行動に違いもあるようです。

西岡千史氏のメルマガ記事（Ref.3）では、故人の意志に関係なく「新しい作品」が発表されることは、倫理的な問題もあると指摘されています。そして、前出の福井弁護士が述べています。

「現在の法律では、故人の名誉やプライバシーを害さない限り、AI で故人を甦らせること自体は法的に可能に思えます。一方、誰が死者を甦らせる権利があるのか、こういった活動まで許されるのか、社会的な合意はありません。AI には無限の可能性が秘められているからこそ、ルールを議論する必要があります」（福井弁護士）

コピー故人の作成は、単純な問題に終わりません。もし、故人ではなく生身の人であればどうなるでしょう。分身ができたようなものですね。また、殺人や事故などによる死亡を隠してコピー人間を発表したらどうなるでしょう。今の社会秩序が崩れていくような問題を提起しているように思われます。その代表例を次節で取り上げます。

ディープフェイク（deep fake）

ディープフェイク（deep fake）は、「深層学習（deep learning）」と「偽物（fake）」を組み合わせた混成語で、AI にもとづく人物画像合成の技術を指します。ディープフェイクの動画例として、先ずは下記のリンク先の動画（72 秒）を見て欲しい。

（Ref.4 <https://www.youtube.com/watch?v=cQ54GDm1eLO>）

バラクオバマ元大統領が喋っているとし
か思えない、AIによって作られたフェイク
な動画（2018年4月）なのです。20秒
を過ぎたあたりで、“オバマ前大統領”が「ト
ランプ大統領は救いようのないマヌケだ
(President Trump is a complete and
total dipshit)」と発言していますが、しば
らくすると画面が二分割されて俳優兼監督
のジョーダン・ピールが現れます。両者の
話している内容と口の動きが全く一緒にな



OBAMA Deep fake (Ref.4)

っており、これがフェイク動画であることがわかります。ジョーダン・ピールの言葉や口の
動きをAIが感知して、それをもとに作られた精巧なフェイク動画なのです。

このオバマ動画のように、政治家の“偽”の発言動画を造ればその政治生命を危うくする
ことができます。ディープフェイクは、政治家や著名人の信用を一瞬で失墜させることがで
きえるのです。描写されているメディアが真実に対応しているかどうかを、もはや判断でき
なくなる時代に人類が陥る可能性があることが心配になります。

ディープフェイク・ポルノ

AV (adult video : 和製英語) やポルノビデオの動画において、その俳優の顔を有名な
海外セレブや日本の女優やアイドルの顔と AI によってすぐ替えたエロ動画があります。
あたかも本物のセレブや芸能人がそうしているように見えてしまいます。しかし、これは
明らかな著作権違反と肖像権の侵害であり、国際的にも問題になっています。また、フェイ
ク・ポルノは、リベンジ・ポルノにも使われる可能性があり問題視されています。

Ref.1 【AI 美空ひばり】紅白出場！

(<https://www6.nhk.or.jp/nhkpr/post/original.html?i=20369>)

Ref.2 AI でよみがえる美空ひばり 熱唱編

(<https://www.nhk.or.jp/special/plus/videos/20191007/index.html>)

Ref.3 西岡千史：“紅白出場” AI 美空ひばり「気持ち悪さ」の正体 法規制は必要か、
AEREA.dot メルマガ

(<https://dot.asahi.com/dot/2019122900003.html?page=2>)

Ref.4 You Won't Believe What Obama Says In This Video!

(<https://www.youtube.com/watch?v=cQ54GDm1eL0>)